



- 体育会名：関西学院大学体育会準硬式野球部
- 創部年：1947年(昭和22年)
- 2025年度会員数：100人(4年9人、3年31人、2年26人、1年34人)

- 同窓倶楽部名：関西学院大学体育会準硬式野球部同窓倶楽部
* 関西学院同窓会 公認団体
- 同窓倶楽部通称：準硬式野球部 OB 会
 - 設立年：1954年(昭和29年)
 - 会員数：830人(男性776人、女性54人)
* 物故者含む

終戦から2年後の1947(昭和22)年、当時体育系クラブ指導監督の立場にあった英語教授、児玉先生より要請を受け、大学予科3年生だった木村昭がチームを編成し西日本大学予科体育大会(軟式野球)に参加した(2位)。それが関西学院軟式野球部の第一歩であり、同年7月、運動総部に公認された。

97年に創部50周年記念式を行ったが、その間、全日本大学軟式野球連盟(49年秋)、関西六大学軟式野球連盟(49年春)の創立・結成に際しても、関学が常に中心的役割を果たし、日本の軟式野球界に大きく貢献している。

全日本大学連盟50年式典の際には、卒業生の木村昭・若林定雄・加納茂隆・村上豊道が功労者として表彰された。また部としても全日本選手権出場22回が評価されて表彰された。スポーツニッポン新聞社の「スポーツニッポン賞」を69年に木村昭、71年に若林定雄が受賞している。また96年、ブラジル・サンパウロで行われたブラジル野球連盟創立50周年記念式典において、長年、日本との野球交流とブラジル野球の発展に貢献したとして、日本高等学校野球連盟、日本野球連盟の長らとともに木村昭が功労者として表彰されている。

主な戦績について

部としては今日まで全日本選手権・選抜・西日本・王座決定戦・国体等に出場し、全日本・全関西選抜チームの一員として沖縄・台湾・韓国・フィリピン・ブラジル・中国・カナダ等への遠征に参加している。

全日本選手権(30回出場)では、55年(第7回)と2003年(第55回)の2度の準優勝を経て05年(第57回)、悲願の優勝を成し遂げた。その後08年(第60回)にも準優勝している。

その他ベスト4進出は58年、65年、89年、97年、2009年の5度ある。全日本に準ずる大会である清瀬杯には2度出場、15年に優勝を果たした。

西日本大学大会では56年、60年と優勝。社会人チームとの全関西選手権では57年に優勝している。

部の活動は関西六大学の春・秋のリーグ戦を中心とし、関西地区各リーグ戦の優勝校による関西選手権出場を目指している。六大学リーグ戦では過去に2季連続優勝が5度、さらに2003年秋から04年春・秋までと、22年春から23年春までの2度、3季連続優勝を達成している。近年の躍進は目覚ましく、02年から11年までの10年間20季で10度優勝、25年春の優勝で、通算優勝回数は春17度、秋19度の計36度となった。

最大の目標である全日本選手権は、春季リーグ戦及び春季関西選手権のほか、関西選手権に出場できなかった大学による関西トーナメントによって出場権が与えられる。ちなみに関学は22年、23年と関西選手権で連続優勝して全日本選手権に出場した。

全日本の主な戦績は前述のとおりであるが、ちなみに初めて決勝進出した1955年の準優勝は、ほとんどが前年夏の甲子園優勝校、中京商のメンバーだった中京短大に2-3で惜敗したものだ。

初の全国制覇となった2005年の決勝の相手は、2年前の決勝で惜敗(9回裏逆転サヨナラ負け)した日大だった。4-4で迎えた7回、坂東選手が決勝打となる2点本塁打を放ち、3人(吉川・小谷・林)の投手リレーの最後をエース山本歩が締めて、6-4で悲願の初優勝を遂げた。山本は準決勝で自身最速の144キロをマーク、その年のドラフトで西武に5位指名され、創部以来初のプロ野球選手となった。またこの優勝には林雄太投手の大活躍、チームを纏め、引っ張ってきた主将の中村昌平の存在が大きかったことを併せて記しておく。

その他特筆する記録としては2011年、関西六大学秋季リーグ戦で長井一真がサイクルヒットを達成。関西六大学準硬式野球連盟結成以来、初の記録として表彰された。

また20年秋季リーグ戦で池端航洋が50年ぶりの完全試合を達成(対神戸大)。21年春～22年秋にかけて、橋本拳が3季連続首位打者を獲得した。

16年には坂本工宣投手が巨人に育成ドラフト4位で指名され、当部2人目のNPB選手に。1軍登板も果たし、現在は読売ジャイアンツ女子チームのコーチを務めている。

準硬式野球は1950年、軟式より音がして良く飛ぶ「トップボール」が開発されたことから始まる。硬式球と内側は同じで、外側に革を張る代わりにゴムで仕上げであり、長持ちする経済的なボールであった。リーグ戦や諸大会はトップボールを用いて「準硬式」という名称で行っている。大学においても「準硬式野球部」の名称を使う大学が増えるなか、関学は創立当時の経緯もあり、長く「軟式野球部」の名称を守ってきたが、2010年6月、「準硬式野球部」に変更し、現在に至っている。

外部との交流も積極的で、大学紛争以前から早大、東北学院大と長年定期戦を開催、法大、西南学院大とも定期戦を行っていた。2012年から交流を開始した慶大とは現在も交流戦を行っている。また海外遠征や、諸外国のチームを招待するなど国際交流も図っている。

創部より66年、歴代の部長先生方、監督を務めて頂いた諸先輩方にたいへんご尽力賜ってきた。部創立時にお世話になった、大学予科の児玉国之進、松本敏夫、松浦一郎各先生。そして歴代部長として文学部の杉本行夫、法学部の西沢修、山崎寛、安井宏各先生にお世話になった。現在ご指導頂いているのは石田真得部長先生(法学部教授)、佐藤暢哉副部长先生(文学部教授)である。

歴代監督は寺坂昭一、木村昭、辻本宏、目沢隆治、鈴木輝彦、藤田良、辻本宏(2度目)各氏のあと、14年秋より伊藤真人氏が務められ現在に至っている。そして部創立時から現在に至るまで部を見守り続けてくれているのが木村昭(現在)総監督。お世話になった先人の方々に心より敬意と感謝を申し上げる次第である。

【文献】『関西学院大学軟式野球部50周年史』1997;『関西六大学軟式野球連盟30年史』;『全日本大学軟式野球連盟50年史』1998;『ブラジル野球史上巻』1985
『関学スポーツ』2005

準硬式野球部 部史 編集担当者

2014年11月14日 榎島芳昭(昭和56年 経済学部) 追記 2025年9月28日